

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

人格の完成をめざし、民主的な社会の形成者として、個人の価値を尊び責任を自覚し、次代の日本をリードする人材を育成し得る高等学校

強き信念(まこと)と 高き理想(のぞみ)を持つ生徒が育つ高等学校

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校
2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとoshi、豊かな人間性を涵養する学校
3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

2 中期的目標

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校

- (1) 新たな大学入試制度に対応し、次期学習指導要領を見据えた教育課程の編制と授業の充実。
 - ア 主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。
 - イ 全クラス文理学科移行にあわせて、探究的な学びの充実をはかる。
- (2) グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)、スーパーサイエンス・ハイスクール(SSH)としての学力向上に係る内容の充実。
- (3) 進路指導年間計画を充実させるとともにキャリア教育の充実を図る。
 - ア 進路検討会議の継続をはじめとした取組みの充実と一層の進路指導の情報提供に努める。
 - イ 国公立大学志望90%という生徒の進路希望の実現を支援する。※令和元年度65% 平成30年度68%
- (4) 英語コミュニケーション能力の育成
 - ア 4技能(聞く、話す、読む、書く)統合型授業の充実を進め、CEFRに対応した4技能を測る校内テストを実施し、実践的英語力の向上を図る。
- (5) ICT化対応の教育の推進と効果的な65分授業の実施
 - ア 授業におけるICT化を進める。
 - イ 教員研修の充実等により密度の濃い65分授業を行う。

2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとoshi、豊かな人間性を涵養する学校

- (1) 学習と学校行事・自治会活動・部活動を両立させうる生徒を育成する。
 - ア 1年次部活動加入率90%以上を維持する。 ※令和元年度94% 平成30年度91% 平成29年度92%
 - イ 取組み内容の精選を行い、自主的活動全般のレベルを上げ、意欲につながる充実感を持たせる。
- (2) あらゆる場で、人を支える意識・人権尊重の意識の向上に努める。
- (3) 図書館の活用促進・読書指導の充実を図る。
- (4) 通級指導を全校体制で取り組み、学校教育全体のユニバーサルデザイン化を進める。

3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

- (1) ボランティア体験活動や授業や行事などを通じて、社会貢献の意識を高める。
- (2) 海外派遣研修や海外の高校による学校訪問(受入)等により、国際感覚の向上に努める。
- (3) 周辺地域、学校の教育活動に関連した関係諸機関との連携を充実させていく。

4. 校務処理の効率化などによる働き方改革の推進

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>・初の大学入学共通テストであったが、臆することなくチャレンジし5教科7科目受験者数、平均得点についても例年同様の実績を上げてきた。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響により、海外研修、コーラス大会、修学旅行等の大きな企画が中止となり、それ以外の学校行事や授業、クラブ活動や講演会なども制約の厳しい中で実施してきたが、生徒アンケートでは、「授業」「探究活動」「進路」「行事」「相談・支援」に係る肯定的評価の割合が大きく上昇し、学校生活満足度も90%を超えた。</p> <p>・これは、感染予防対策をした上で、できる行事は形態や時期を変えて中止せず実施し、実施にあたって生徒も創意工夫をしたことで、これまでとは違う充実感や成功体験を持った事が、その要因であると思われる。</p> <p>・保護者アンケートについても、回答数が770人と前年度より200人以上増加した。さらに、教育内容についての肯定度も、ほとんどの項目で90%を超えている。これらの事から、保護者の本校の教育活動に対する信頼度は高まったと考えている。一方で、施設設備の充実を期待する意見は例年同様多く、引き続き課題となっている。</p> <p>・来年度に向けても、オンラインの活用や実施形態のさらなる工夫を行い、本校の特色や大事な取組みが継続される様にしていきたい。</p>	<p>【第1回 令和2年7月10日 書面により実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休校中のオンラインでの指導は、学校と家庭とのつながりができ、保護者も安心できた。 ・学校行事は生徒のメンタル面でも大事なので、できるだけ中止せずに感染予防策をしっかりとった上で、工夫して実施してほしい。 ・新型コロナの感染の影響が続く中で、課内ですること、放課後や課外ですること、オンラインでできる事など、課題の整理を行い、より効果的な教育をめざしてほしい。 <p>【第2回 令和2年11月25日実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと「質問」が授業の中で多くあっても良いと思う。質問が増えれば、生徒の「聞く力」や「説明する力」もついていく。それが大学に行ってから役に立つのではないか。 ・課題研究の授業では、「多角的な視点を身に着ける」ために、教員は「考え方」を指導することが大事である。難しいことではあるが、教員はこのような指導力を身に着けてほしい。 <p>【第3回 令和3年2月19日 書面により実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で今年度は、学習面で生徒の独学のウエイトが大きくなったが、今後も期待に応えられるような実績を残すために、授業や講習などの見直しや改善を続けてほしい。 ・授業だけでなく行事なども含め「学びを止めない」という学校の姿勢が、生徒の満足度の高さとなっている。学習と部活動や行事などの両立はこれからも大事である。 ・探究活動では、課題意識や当事者意識を大事にするとともに、多角的な視点で俯瞰的に考える制を育成する機会として、解決のための力をさらに高めてほしい。 ・SNSによる学校情報の提供により、保護者は学校の様子を知り安心できた。今後も積極的な情報発信をお願いしたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校	(1) 学力の充実と進路希望の実現		※()内は元年度のデータ	
	ア 学習指導方法の更なる工夫と改善	ア 授業改善 ① 日常的な授業見学(パディシステム)や研究授業の実施などにより、自らが積極的に日々授業改善に取り組む ② 学習到達度の低い生徒に対する授業の工夫や、補習・講習の充実に努める。 ③ 授業見学や教職員研修を充実させる A. 授業相互見学の実施 B. 定時制教員や他校教員との合同研修	・授業アンケートによる肯定的評価 87%以上 ・学校教育自己診断の関連項目の向上 「わかりやすく興味深い授業」(91.2%) 「到達度の低い生徒への指導」(77.8%) 「考えをまとめ発表する力」(77.5%) ・相互授業見学の実施 ・合同研修の実施(4回) ・自習室の利用促進(一日平均 20 人)	・授業アンケート肯定的評価は 89.5%と上昇し、学校教育自己診断の各項目についても、それぞれ 93.9%、81.5%、81.3%と全て向上した(◎) ・授業相互見学だけでなく、教員の自主研修も例年以上に実施された。また、他校との合同研修はコロナウイルスの関係で実施できなかったが、本校定時制との合同研修は 2 回実施した。(○) ・自習室利用者も平均 27.3 人と 3 割増加した。(○)
	イ 全員が課題研究に取り組むための指導体制の確立	イ 課題研究の指導体制 ① SSコースの研究レベルの向上 ② LSコースの指導プログラム作り	・コンクールやコンテストの受賞数の増加(全国レベル3人、府レベル 18 人) ・SS・LSコースの指導プログラムの完成	・新型コロナウイルスの影響で、後半の研究がストップしたが、府レベルで受賞者が 1 名いた。(○) ・発表会や「アカデミックライティング」の導入などの年間の指導の流れを確立できた。(○)
	ウ 明確な進路目標をもたせるための指導と、進路実現を図るための指導の充実	ウ 進路指導 ① 集中セミナー、サマースクールの充実 ② SSH事業における研修(東京・豪州)やマifestaなどの実施 ③ 粘り強くチャレンジする意識のはぐくみ ④ 進路実現に向けた研修や講習の実施	・学校教育自己診断での生徒・教職員アンケート「GLHS、SSHの取組み」肯定率の向上 (それぞれ 80.2%、83.1%) ・2年 12 月進路検討会議の実施 ・国公立進学率現浪合わせて 70%の実現 ・1月共通テスト後の講習の見直し	・海外研修は実施できなかったが、マifesta、1 年阪大研修は実施し、生徒 82.4%と教職員 80.2%となり生徒の肯定度は向上した。(○) ・進路検討会議の実施と、1 月の共通テスト後の講習を見直し、個別試験対策を強化した。 ・国公立大学進学者は 63%となった。(△)
エ 英語4技能の身につけるための取組みの充実	エ 英語4技能の取組み ① 4技能を測る校内テストを新たに実施 ② 外部検定試験受験の促進	・1年生でCEFR-Oに基づくスピーキングテストの実施 ・外部検定受験者全員A2以上の維持	・CEFRに基づく校内テスト(CEFR-O)を実施し、スピーキングテストの手法を確立した。(○) ・外部検定受験者数は新型コロナの影響もあり減少したが、A2をクリアしている。(○)	
オ ICT化の活用と 65 分授業の効果的な実施	オ アクティブラーニング ① 授業のICT化の促進と密度の濃い 65 分授業の実施	・学校教育自己診断関連項目の向上(生徒 93.5%、教職員 97.7%)	・学校教育自己診断では、生徒 94.7%、教職員 96.3%となっている(○)	
2 豊かな人間性を涵養する学校	(2) 豊かな人間性の涵養			
	ア 学校行事や自治会・部活動の取組みの充実	ア 行事と自治会・部活動の充実 ① 行事やHR活動を精選し充実させる ② 部活動入部を促進する	・年間行事のスケジュールを確定する ・学校教育自己診断の関連項目の向上(HR83.0%、行事 85.6%、自治会 85.7%) 学校生活満足度 90%実現(89.5%) ・部活動入部率 90%以上維持(90%) ・継続的遅刻者数を減少させる(35%)	・新型コロナの影響で、コーラス大会、修学旅行等の中止もあったが、それ以外の行事は形態を工夫して実施し、学校教育自己診断でもHR 86.9%、行事 91.5%、自治会 90.2%と、学校生活満足度 92.1%と大幅に向上した。(◎) ・遅刻者総数は減少したが、新型コロナへの感染不安等もあり、継続的遅刻者の割合は増加した。(△)
	イ 挨拶の励行と自己管理能力の向上	イ 挨拶の励行と自己管理能力の向上 ① 遅刻欠席を減少させる	・学校教育自己診断の肯定的回答率の向上(90.4%) ・通級指導の全校体制の確立	・SC来校 20 回などにより、肯定的回答は 93.4%と向上し、教育相談活動が一層充実した。(◎) ・通級指導の体制づくりが進み、支援が充実した。(○)
	ウ 教育相談と通級指導の連携による生徒支援の充実	ウ 生徒支援の充実 ① 教育相談体制を充実させる ② 通級指導教室を開設し支援に取り組む	・学校教育自己診断の関連項目の向上(人権学習 95.0% いじめ対応 88.7%)	・人権学習 93.5%、いじめ対応 93.0%と高い肯定的回答があり、人権意識の向上をはかることができた。(○) ・図書委員は 31 人となり、図書便りの発行など例年同様、積極的に活動した(○)
エ 人権尊重の意識の向上	エ 人権HRなどの充実 ① 仲間の思いのわかる集団作りを進める ② いじめや人間関係トラブルへの組織的対応	・委員会活動の実績と人数の増加(28 人)		
オ 図書館の活用促進	オ 図書館の活用 ① 委員会活動の活性化と利用促進			
3 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校	(3) 社会貢献活動の推進			
	ア 社会貢献の意識の高揚	ア 社会貢献活動の充実 ① ボランティア体験活動の実施	・大阪城公園の清掃ボランティア ・その他ボランティア参加人数の増加(358 人)	・ボランティアの機会が減り、参加者総数は 30 人と減少したが、大阪城公園の清掃を自治会主催で生徒が企画して行うなど前進が見られた。(○)
	イ 国際感覚の向上	イ 国際教育の推進 ① 海外生徒派遣研修(豪州、シンガポール、アメリカ)の実施 ② 姉妹校(英国ペングライス高校)との交流、来日高校生との交流の実施	・実施の有無と、学校教育自己診断の国際教育に関わる肯定度の向上(生徒 84.6% 保護者 96.9%)	・オンラインでの台湾の高校との交流や春休みのオンライン研修(50 人)などの新たな取組みも実施したが、海外研修は実施しなかったため、海外研修に関するアンケートは実施しなかった。(—)
ウ 地域と連携した教育活動の充実	ウ 地域との連携 ① 保育所等交流、弁護士会、税務署などの地域を舞台にした教育活動の実施	・各取組みの実施状況	・保育所交流以外の地域連携による取り組みは実施できた。(○)	
4 働き方改革	(4) 働き方改革の推進			
	ア 校務処理の効率化	ア 校務処理等の効率化を進める	・時間外勤務の削減(平均 20 時間削減)	時間外勤務の 20 時間減は達成できなかった。(△)